

根雨公会堂の思い出

杉井久子さん（根雨）



昔の記憶をたどりながら話す杉井さん

根雨の歴史を見つけて
いつから根雨公会堂の管理
人を始められたんですか
私が50歳のときから当時公
会堂の横にあった管理棟に移

り住んで、管理人を20年務め
ました。当時の公会堂は、い
ろいろな会議や催し物に使わ
れていて、選挙のときは開票
所にもなっていましたね。私
が女学生のころはひんぱんに

聞くとところによると、杉井
さんは普演劇をされていて名
役者だったとか
女学校のころ、何人かで集
まって「忠臣蔵」などの芝居
をしていました。
30代のころは、婦人会や女
学校の同窓会で芝居を上演し
ました。演目は日本の歴史物
で、「赤垣源蔵」では源蔵の兄
を、「勸進帳」では弁慶を演じ
ました。私は声が大きかった
からいつも男役でしたね。
昔は、根雨に化粧をしてく
れる人や宝塚出身で踊りを教
えてくれる人、芝居の指導を
してくれる人などがいました。



根雨公会堂から神社方面を望む（昭和15年）

根雨公会堂（現歴史民俗資料館）の管理人を長年務めていた
杉井さん。ご高齢の今も元気で暮らしておられます。
そんな杉井さんに、根雨公会堂のことや昔の根雨のまちのこ
となどについてお話を聞きました。

映画会も開かれていたみたい
です。時々は宴会もしていま
したよ。後片付けが大変でし
たけど、のんびりした時代で
したね。
管理人をしていたとき、公
会堂の庭に花などを植えてい
ました。今どうなっているの
かが気になるので、今度久し
ぶりに上がってみようと思っ
ています。とても楽しみです。

本番は公会堂の舞台に机で花
道を作って上演し、当時は娯
楽も少なかったのでしょうか、
客席はいつもいっぱいでした。
せりふを覚えるのは大変でし
たが、舞台上がって恥ずか
しいと思っただことはなかつた
ですね。

長年根雨のまちにお住まい
の杉井さんですが、昔の根雨
のまちはどうでしたか
昔の根雨のまちはお店もた
くさんあってにぎやかでした
ね。今のJA日野支所のあた

現在何か趣味はありますか
今は読書ですね。町図書館
にも時々借りに出かけますよ。
ありがとうございました

グループ討議で課題を出し合う 第3回日野町まちづくり町民会議

5月17日、第3回日野町まちづくり町民会議が町役場で開かれました。

テーマを3つに設定、グループごとに話し合う

今回の会議では、前回提案のあったグループ討議を行いました。今回は討議のテーマを、人づくり・自立政策推進（A班）、福祉・生活環境（B班）、産業・観光振興（C班）の3つに設定し、委員はそれぞれのグループに分かれて自分の思うことなどを自由に討議しました。

A班の討議内容
A班では、行政や財政再建など、主に自立政策推進をテーマに話し合われました。主な意見

このグループ討議を同じメンバーで何回か続けていけばどうか。少人数なので結論が出やすいと思う。結論が

ば他の班に変わっても良いし、愛と元気なまち、「このま

ちをどうするか」という具体的な目標が必要だと思う。予算が先になるといけない。役場は「予算がない」で終わってしまふ。町民が力を合わせてやっていくことに力を入れる。その具体的な目標がほしい。

財政再建が一番であり、「してくれ、出してくれ」ではないけない。何でもしてくれという要望に応えればきりがない。

「金がなくても、こうしたらできる」が大切。住民が頑張っていくテーマ、スローガンを掲げて自分たちも頑張りたい。

何もしなければ4億8千万円の累計赤字になるが、自分たちが動いて3億円にするこ

とも必要。

財政破たんした夕張市の状況を町民も知らない痛みがわからない。再建団体になつたらどうなるのか。

B班の討議内容

B班では、元気な高齢者づくりなどについて話し合われ

ました。

主な意見

集落ごとに集まって高齢者がお茶を飲む場所も少なくなつた。在部の人はまだ元気だが、町部の人は一層元気がなくなつたように感じる。

老人会も年数回の活動はあるようだが日々の活動が少ないようだ。

共通の趣味があればよいが家の外に出るにはきつかけが必要。

町民体育祭にしても、出る地区と出ない地区がある。こついうのも交流の場の一つと思ふのだが、参加できる雰囲気づくりが必要。

役場が開いているばかばか教室に自治会として取り組んでいる。人が集まる方法としてばかばか教室への参加を広く呼びかけてみては。内容も盛りだくさんだし、良いきつかけづくりになると思う。

C班の討議内容

C班では、まちの産業・観光振興などについて話し合われました。

農地の荒廃が今一番の問題。特に井手の維持管理が大変。水路組合の中で、外部にお

金を払って管理委託に出そつ

かという話が出た。シルバー人材センターやフリーターなどの活用はできないものか。老後の楽しみとして遊休農地を使って農業をしてみてもいいと思う。

退職後の楽しみとしての農業の需要もあると思う。そうした人を誘致してはどうか。農作物のブランド化について、純粹の日野産米をブランド化し、インターネットで宣伝すれば、メディアの力は大きい。

大夢多夢ではスズハラモチをブランド化し、餅にこだわって取り組んでいる。町外の人にも喜ばれている。

町の空いている土地に企業誘致できないか。町職員を一人企業誘致専門に配置し、町民とペアになってネットを立ち上げて全国にPRしてみたらどうか。

日野町には観光資源はいっぱいある。今までは本気で考えてこなかったと思う。財政難の今がチャンスなのでは。

次回の町民会議は、7月26日に開かれる予定。今回同じグループでさらに深く話し合われることになりました。



少人数でざっくばらんに気付いたことを出し合いました